

【2024 年度】文化ファッション大学院大学 教育課程連携協議会 意見・要望

日 時：2024 年 9 月 19 日（木）17：00～19：05

場 所：Zoom によるオンライン

委員：19 名（学外 12 名、学内 7 名）

出席者：16 名 ※欠席者 2 名は意見・要望書を提出

目的

本大学院の授業と学校運営のあり方に対してのご意見及びご要望をいただくことを目的とし、次の 2 点についてご意見を賜った。

「どんな能力を身につけた人材を必要としているか？また社員にどんな教育をさせたいか？」

「本大学院の課題、担う役割、専門職大学院として社会から期待することは何か？」

各委員からの意見・要望

1.

- ・生成系 AI はアカデミックな領域にも進出し、精度も上がってきている。今後のファッション業界に影響を与えるのは画像解析と画像生成の AI であると思う。それを使いこなせる人材をどう輩出していくかが重要だと思う。
- ・社会人としてのベースとなるジェネラルなスキル、実践力のある人材が求められていると思う。正解のない時代の中で、一人ひとりが成長し変化していく人材に教育していく必要があると思う。
- ・情報が氾濫している昨今、情報検索能力の差が激しいと感じている。AI の時代だからこそ物事の調べ方が重要になると思う。加えてファッション業界では、プレゼンテーションで意思を発信していく力やファシリテーション力が大事になってくると思う。
- ・知識の詰め込みだけではなく、人間力が高まるようなプログラムがあると学生の将来にも繋がっていくと思う。
- ・ファッションは市場としても規模が大きく、人の生活に相関があり、気持ちにも影響を及ぼす素晴らしいものだと感じている。留学生が多数を占める現状をみると、日本ではファッション業界が期待されていないようでどかしい感覚であるが、日本人学生がファッション業界の未来を明るく感じてもらえるような教育を共に作っていったらと思う。

2.

- ・労働人口の減少を踏まえると、生産性の向上が最重要課題であると思う。ファッション業界が他の産業の GDP と比較しても劣後してしまった産業であることを鑑みると、「量から質へ」というのがキーワードになってくると思う。特に環境面では世界全体の環境のキャパシティが不可逆的な状況であるため、資源投下量を下げて負荷を軽減していくことが必須である。
- ・ファッションに関する無形資産の中で、ブランディングとサステナビリティをどう捉えるかがポイントになると思う。ブランディングについては、ブランド価値を向上させる構築ができ、ビジネスに実装することができる中長期的なカリキュラムがあると良いと思う。
また、グローバルの潮流の中で、日本流のサステナビリティにどう取り組むかが重要であると思う。日本の素材の良さには定評があるが、製造工程自体がサステナブルかどうかという点にも関心が高まってきている。今後は日本のものづくりにおけるトレーサビリティやトランスパレンシーもキーワードに

なると思うので、本質的なサステナビリティを学べるカリキュラムがあると有益だと思う。

- ・日本人学生の獲得が課題だと思う。ファッションに携わる人が儲かり、魅力的な人材が集まるような社会を作っていけたらその問題解決に繋がっていくため、企業側もそういった社会づくりに貢献したい。

3.

- ・ファッションを通じてどうなりたいのか、どのようなファッションの未来を描き携わりたいのかという事を意識し、ビジョンを持ち合わせてほしい。目的意識を持つことで必要な能力も見えてくると思う。
- ・美意識を養ってほしい。ファッションに限らず業種や役割を超えて、多感な時期に本物に出会う、触れるといった環境づくりに取り組んでほしい。
- ・好奇心や情熱があり、これだけは誰にも負けないといった専門性や個人のセールスポイントがあると頼もしいと思う。個人的に一芸に秀でた人材に惹かれる。
- ・専門職大学院の担う役割、社会からの期待としては、グローバルで活躍する人材の輩出のための世界最高水準のファッション教育を行うという建学の精神、教育理念のとおりで良いと思う。付加価値の高いビジネス、独自性があり代替のきかない顧客満足度の高いファッションビジネスを担える人材の輩出を期待する。これは学校だけではなく、ファッション業界が共に取り組むべきものである。
- ・今後の課題としては、修了生が建学の精神に則った活躍をしているかの検証をしてみるとよいのではないかと思う。
- ・日本人学生が増えるといいと思う。日本全体の課題とも言えるが、0 から 1 にするクリエイティブをファッション分野で牽引できるような教育機関になってほしい。

4.

- ・為替の不安定な動きやインフレによる原料高、バングラデシュやミャンマーなど重要な生産地の政治的状況の変化、地球温暖化による問題など、ファッション業界は厳しい状況である。その中でクオリティが高くより良いものづくりができる人が求められるということは当然だが、さらにコスト（原価率）、適切な展開時期や生産数量（回転率、消化率）、利益（粗利率）など、クリエイションを取り巻く環境への理解に長けた人が特に求められていると思う。
- ・AI や ChatGPT はクリエイティビティを助けるツールとして効率化と精度を高めるポジティブなものであるが、デザイナーなどの仕事の大部分は今後 AI にとって代わられるであろうと思っている。AI や ChatGPT は学校が教えるものではなく個人で習得していくものだと思うが、デジタルに慣れていくためのカリキュラムは必要だと思う。
- ・ファッションスクールは今大きな転換期を迎えている。AI をツールとして使っていく時代になっていくが、AI にはできない「手仕事」や「クリエイティビティにおける高度な洋裁技術」は時代を大きく進めていくひとつであると思う。

5.

- ・デザインやパターンなどの技術があることを前提に採用活動をしている企業が多いと思うが、それだけではなくプラスアルファの要素を学生時代に身につけることができれば強みをもって社会に出ることができると思う。
- ・興味や関心を持つ好奇心旺盛な学生は、きっかけがあればどんどん自身の能力を伸ばしていくと思う。
- ・デジタルや AI といったテクノロジーをカリキュラムの中でうまく組み込んでいくことで、ひとつの強みになっていくと思う。

6.

- ・日本のファッション産業は、BCT (business/creative/technology) という 3つの柱のうちいずれかが

欠けるとビジネスはうまくいかないと言われており、ファッション業界の中でそれらをバランスよく持ち合わせている人はほとんどいないという印象がある。3つの柱をバランスよく繋げて考えられる人材が今のファッション産業では足りていないため、それらを繋ぐことのできる人材の輩出ができればビジネスチャンスも生まれると思う。

- ・生成系 AI は日々進化しており、そういった分野の知識を持っていることが前提になる世の中になってきている。生成系 AI を適切に活用できれば新しいビジネスも次々に生まれていくことは間違いないと思う。生成系 AI はどういう仕組みでどう活用するのか、本質は何なのかということを経験時代に深く学ぶ経験ができると将来に必ず活かせると思う。また、それが今問われていることであると思う。

7.

- ・婦人服は高いか安いかの2極化が進んでいるが、新規の取引依頼が殺到している。それはより付加価値の高いものづくりをしたいという取引先の希望によるものである。
- ・どのアパレルも熱い思いを持っている。そのような思いがものづくりに伝わると売れる商品を生み出すことができる。熱い思いを持った人材を育成してほしい。
- ・MDにおいては売れる時に売れる商品を作ること、プロパー消化率をいかに向上させるかということに対して強い思いを持つことが大切である。そういった商品を作る人材を育ててほしい。
- ・グローバル化を目指している取引先が多い。MADE in JAPANに誇りと自信を持ち、世界に出て発信できる人材を育ててほしい。

8.

- ・海外ブランドが日本のマーケットに進出をする際、情報発信の仕方、商業施設に入るためのアプローチ方法などが分からない方が多い。日本で教育を受け、日本でのビジネスを多少経験していたとしても情報が少なく、あるいはそういう方々を案内できるようなプラットフォームも少ないと実感している。今後は日本とアジア、双方で互いに越境しビジネスを展開していくことも重要だと思うが、その橋渡しができるような人材をどう作っていくかが教育機関の役割であると思う。
- ・ファッションビジネスの産業課題としてはDXとSDGsが注視されていると思うが、環境問題に偏重しすぎていて、人権問題をはじめとするそれ以外の課題が置き去りにされているように思う。日本の人権状況は世界的に見ても遅れており課題も多いが、このあたりの教育を教育機関の中でできれば良いと思う。
- ・人口も減り、所得も物価高に追いつかない状況で、ファッション産業を明るいものにしていくことは難しい展望だと思うが、必ず可能性はあると思う。ファッションだからこそできる新しい産業の創出や環境対策など、できることを率先してやることによりファッション産業の未来に明るさがでてくると思う。教育機関の中でそのようなことをしっかりと伝え、構想できるような人材の輩出を期待したい。

9.

- ・「ビジネス」と「環境に対するサステナブル」の取り組みをいかに両立させるかということについて深く学んでいく必要があると思う。特に起業家という観点では、ファッションをビジネスにしていこうとした時にその視点が重要になると思う。そのようなことが学べるカリキュラムがあったら良いと思う。
- ・学生に対する心身のケア等については充実していると思う。
- ・日本人学生をいかに増やしていくかについては、検討の必要があるように思う。

10.

- ・どんな能力を身につけた人材を必要としているか？

①表現を自ら追求できる思考力がある人材：テーマを構築し、リサーチを実行し、幾つかのアウトプット

トをして、客観的意見を取り入れながらまとめていける。

②グラフィックやプレゼンのソフトウェアスキル：photoshop、illustrator、PowerPoint、Excel、CLOなどデザインやアパレルビジネスにおける最低限のデジタルスキルが身についている。

③コミュニケーションスキル：考えていることを第三者にわかりやすく伝えられる能力やプレゼンテーション能力が必要。自分なりの伝え方を構築できる。

④実行スキル：スケジュール管理やコスト見積もり、チーム統括、イベントなどを実践しながら、発信することを形にして社会に繋げる実行力を経験している。

・本大学院の課題、担う役割、専門職大学院として社会から期待することは？

①大学院ではよりビジネスに近い考えを経験した方が就職してからの動きと乖離がないと思うため、産学連携プロジェクトやインターンシップを推進していくことをお勧めしたい。

②外部のセミナーや展示会情報を学校から学生に案内し、社会の動きを学ぶ機会を支援すると良いかと思う。

③就職活動において、地方企業も人材を必要としているため、就職マッチングのイベントや情報プラットフォームを構築すると企業も参加したいのではないかと思う。

④卒業後にすぐにブランドを立ち上げる人材も多くなっていると思うが、スタートアップをする学生にビジネスで起こることを大学院の間で指導する機会があると良いと思う。オンライン構築、展示会運営、品質管理など新ブランドが必要な知識を教えるなど。

11.

・業界全体が人材不足の課題を抱え、リモートワーク化に加え時短勤務の世の流れがある中で、十分な新人研修環境が整ってない企業も少なくないと言えます。その狭間で悩む新社会人が多くいることも事実です。実務の現場でこそ身につくノウハウがあることが前提ですが、極めて実務に近い実践的なノウハウやその準備を行なうことができるのが、実践的な専門職大学院の役割であり、社会から期待されていることと考えています。時代が早く移り変わる中で、モデルやマニュアルがないことも自身で仮説を立てて、実行、修正していくようなポジティブな思考や能力も社会をサバイブする上で必要です。これらはカリキュラムでトレーニングできる領域だと考えています。

また、サステナビリティと向き合う時代の中で、「日本生産の未来」という最も身近な課題があります。多くの企業も現在進行形で日本の工場との協業を改めて組み立て直しています。全国の繊維産地の特徴や、テキスタイルや縫製の技術、産地の持続可能性モデルの必要条件なども、在学中に触れてみていただきたいです。パリやミラノをはじめ、海外のブランドが毎月のように日本に来て理解を深めものづくりをしているので、BFGUの学生さんたちも世界に誇る日本のものづくりの技術を活かしたアウトプットにトライして欲しいです。

12.

・海外から入学希望者も多い文化の「BFGU」の存在には特別感があります。具体的に自分の未来の希望がはっきりしていて実現を目指す学生が多い。実際に社会に出て目立つ存在ですが、何でも器用にこなす一方で、自分の強みを押し出せない人も時々います。

今、「BFGU」の卒業生は目立って活躍していますが、今後への期待として、自由さと個性の尊重があればさらに「BFGU」が魅力的になるような気がします。

以上